

ソロモン諸島で咲かせたソフトボールの「花」、普及の最前線

文・写真 井上 栄 (青年海外協力協会)

第 8 回

新たな立場で組織運営



いのうえ・さかえ/1980年12月11日生まれ。愛知県出身。小学校からソフトボールを始めて大学までプレー。卒業後は愛知県公立中学校に体育教諭として勤務。2007年に退職し、青年海外協力隊に参加してジンバブエ共和国(07年6月~08年3月)、ソロモン諸島(08年8~09年12月及び10年4月~11年3月)に赴任。帰国後は、星槎名古屋中での勤務を経て、公社・青年海外協力協会に所属して駒ヶ根青年海外協力隊訓練所に勤務。

ソロモンで久しぶりにリーグ戦が行われたのは、2009年5月から7月のことでした。私がソロモンへ赴任するときに、北京オリンピックではソフトボール競技の予選が真っただ中でした。そして、その五輪を最後にソフトボールは競技種目から外れました。日本にいたころ、オリンピック競技から外れることが何を意味するか分かっていませんでしたが、ソロモンに来て、その意味がやっと分かりました。

ソロモンにもオリンピック委員会(National Olympic Committee of Solomon Islands、以下NOC SI)があり、その名のとおり、主な活動はオリンピック競技を支援することです。各スポーツ連盟は「Sport Development Officer」と呼ばれる、実際に大会の企画運営や普及活動をする役割の職員がいます。オリンピック競技はこの活動費がNOC SIから多少得られます。しかし、オリンピック競技から外れたソフトボールは、予

算がまったく得られません。私がソロモンに赴任したのは、現地の連盟が「予算を得ることができず、どうしていいかわからない」という状況下でした。

しかし、「いつの間にかソロモンでソフトボールが始まっている」「リーグ戦が開催されたぞ」「それも、チーム数が結構集まっている」「ソフトボールをしているのは、日本人のボランティアらしい」。この事実に興味を持ったソロモン諸島野球・ソフトボール連盟が「JICAへボランティア派遣の要請をしたい」と、言ってきたのです。その後、JICA事務所と連盟間で話し合われ、短期と長期の隊員が派遣されることになりました。そして、体育隊員を終えた直後、



クィーンズバトンリレーでは、各校にバトンが到着すると我先にとタッチする(写真右)。一緒にクィーンズバトンリレーに参加した連盟の同僚と選手たち(写真左)

ソロモン諸島 Solomon Islands
首都: ホニアラ (ガダルカナル島)
人口: 約53万人
言語: 英語、ビン語
面積: 2万8,900km² (岩手県の約2倍)
大小約100の島々からなる英連邦の一国で、4000もの集落が点在している。地理的にオーストラリアとの関係が深く、日本ともいろいろな面で友好を結んでいる。国民の大半が農業・漁業に従事しているが、近年は天然資源の開発で注目を浴びる。



私はその短期隊員の募集に応募し、無事に合格したため10年4月より「ソフトボール隊員」として再び活動することになりました。

「小中学校レベルでの普及活動」「中等学校大会の開催」が連盟から要望された主な活動でした。連盟とミーティングを重ね、その計画を立案し、連盟の職員として顔を合わせたのは5名、全員が別の仕事を持っていて、そのため彼らとミーティングができるのはいつも仕事を終えた後の18時以降でした。専用のオフィスがないため、他の連盟と同じようにNOC SIのオフィスを間借りし、情報収集と人脈の構築を始めました。

同時に連盟からの要望を実現するための手だてを考えました。長期隊員のころは、「ソロモン人とソフトボールをしたい」「ソロモン人にソフトボールを楽しんでほしい」という思いだけでしたが、今度はソロモンの連盟からの要望での活動。少しでも長くソフトボールが行われるように、ソフトボールをしていない人からも存在を認めてもらえるように、ソフトボールをすることが少しでもソロモンの役に立つように。そんなことを考えながら活動の手だてを考えました。当時、私が考えていたソロモンの課題は、「目標のない中高生の存在」「無職の若者の増加」



ソフトボールに少しでもかかわれるように、ストラックアウト装置を手作り。材料を分けてもらうだけのつもりが、おじちゃんたちがほとんど作ってくれた(写真上)。ファンレイジング・イベントではこのストラックアウトを設置した

「肥満の増加」なのです。この一つにでも貢献できるようにと思っていました。そのためにも一人でも多くの人にかかわってほしい。行き着いた結果は、長期隊員のときと同じでした。しかし、自分がこの国を去るときに集まってくる人が居場所を失ってはいけません。「どうにか続くように。これは思いとは別の大きな課題でした。そのため、ソフトボールをしていく人たちの組織が必要でした。組織ができれば運営するためのお金が必要になる。また、これまで練習や大会の開催をしていたグラウンドは、職員として働かせてもらっていることから通常、他団体の利用時に払う使用料を

免除してもらっていました。この使用料を支払えるようになることが一つの大きな目標になりました。長期隊員の時代に始めたリーグは、なるべく自主運営ができるようにと、あえて各チームから2名ずつ代表を出すという形で「ホニアラソフトボール協会」を設立しました。

「資金集めとソフトボール連盟復活のアップル」がまず新たに取り組み始めたことです。そんな折、連盟の活動として「クィーンズバトンリレー」というものに参加することになりました。これは、オリンピックの型火リレーのようなものです。ソロモンは、元々イギリスの植民地で、今もイギリス連邦に属し

ています。英連邦に所属する国・地域が参加する「コモングエルズゲーム」が4年に一度開催されます。その大会の聖火を運ぶリレーがちょうどソロモンにやってきたのです。私たちソフトボール連盟もNOC SIに協力すること、ほかの連盟にも復活をアップルするために連盟職員と選手とともに走りまわりました。このバトンは、首都中心部の学校を順番に回っていたのですが、その中にはなぜか刑務所もあり、生まれて初めて刑務所に入るという経験までしました(苦笑)。

Information ソフトボール隊員募集!

10月2日から始まったJICAボランティアの秋募集では、青年海外協力隊2名、日系社会青年ボランティア1名、日系社会シニアボランティア2名の計5名のソフトボール隊員を募集している。

派遣国はベリーズ、ポリビア、ブラジルの3カ国。しかし、同じソフトボール隊員といってもその活動内容はさまざま。例えばベリーズでは小中学生の指導とさらなる競技普及が求められ、ポリビアでは小学生から成人までの全ポジションの指導ができる人材が求められている。1次選考の書類審査には語学力審査、2次選考には実技試験がある。すぐに応募ができない人もぜひホームページをご覧ください。

HP / <http://www.jica.go.jp/volunteer>